愛媛県立新居浜病院ニュース

vol. 12 平成22年1月発行

- 新年ご挨拶
- 救急医療と東予救命救急センターについて
- インフルエンザ対策について
- 県立新居浜病院主催市民公開講座のお知ら

院長　酒井　堅

新年明けましておめでとうございます。

本年も新居浜病院をよろしくお願い申し上げます。

昨年は政治の面で大きな変化がありました。自由民主党から民主党に政権が変わり、「コンクリートから人へ」とその軸足を大きく転換した年となりました。また新型インフルエンザに振り回された年でもありました。

当院では昨年度末立ち上げました周産期医療が、医師をはじめ多くの職員の努力により軌道に乗ってまいりました。県立中央病院や愛媛大学と連携を図りつつ新生児や妊産婦対応が出来てきているのではと自負しております。また心臓リハビリテーションも着実にその成果を上げ、対象患者さんの※QOL 改善に大いに貢献しております。　※QOL：生活の質

新しい年と共に医療界にも明るいニュースが欲しいところですが、依然として厳しい状況が続いております。新研修制度があぶり出した日本の危うい医療体制はいつになれば安定したものになるのか？まだ先は見えていません。医師の地域への定着をどう図ればいいのか？魅力ある職場（病院）づくりをすればいいということは分かっているのですが、「言うは易く行うは難し」というのが偽らざる実感です。

当院の果たすべき役割は安心・安全を基礎とした信頼される安定した医療の提供にあると思います。地域住民に対する一般診療、東予地域全体に対する二次・三次救急医療および周産期医療。この三つをどう成り立たせていくのか。無尽蔵なマンパワーがあればこれといった問題はないのですが、病院経営という大きな壁が立ちはだかっております。県病院といえども社会経済の流れの中に存在し、それを無視して成り立つものではありません。限られた医療資源の中で、「地域から信頼され、必要とされる病院」づくりとはどうあるべきか？その重責を感じつつ自問自答する日々が続いています。

職員一同も日々自己研鑽を積みつつ診療に当たっております。当院を受診される患者さん全てが、診てもらって良かったと感じられるような病院を目指してより一層努力して参りたいと考えております。今後も、病・病連携、病・診連携を積極的に行い、地域医療に努力して参りたいと思います。

また、この病院ニュース等を通じて当院の情報を積極的に発信したいと考えております。本年もよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が皆様にとって昨年よりも良い年でありますようお祈り申し上げます。

救急医療と東予救命救急センターについて

救命救急センター長
脳神経外科　武田哲二

いつも愛媛県立新居浜病院ニュースをご覧いただきありがとうございます。

今回は現在の救急医療の体制について簡単にお話し、当院の救命救急センター（東予救命救急センター）のこれまでの診療実績と今抱えている問題、今後考えていかなければならないことをお話したいと思います。

まず救急医療についてですが、救急医療は昭和 52 年から初期（一次）、二次、三次救急医療という階層的な救急医療体制の整備が図られ、現在に至っています。この初期、二次、三次救急医療という言葉については、最近では医師（勤務医）不足や医療崩壊といったマスコミ報道によりかなり耳慣れたものになってきた感があります。しかし、実際どのような患者さんを対象に行う救急医療なのかについて、一般の方の認識はまだまだ少ないと思います。これについて少し説明したいと思います。

初期救急医療とは、外来で対処できる軽い怪我、風邪、子供さんの軽症の発熱など自力により受診可能で、入院の必要がない比較的軽症の患者さんに対応するもので、新居浜市では時間外の初期救急医療機関としては内科・小児科急患センターがあります。

次に**二次救急医療**とは、入院治療を必要とする重症な病気や怪我をした患者さんに対応するもので、当院も新居浜地域の二次医療機関として地域住民の方に必要とされる救急医療の提供を行えるよう努力しています。

最後に**三次救急医療**ですが、これは二次救急医療では対応できない重篤な病気や怪我をした患者さん、また複数診療科にわたる高度な処置が必要な病気や怪我をした患者さんに対応するためのもので、東予救命救急センターなど全国に設置された救命救急センターがその役割を果たす医療機関として位置づけられており、それに対応しうる診療体制をとっています。

以上のような救急医療体制では、軽症で通院治療が可能な患者さんは初期医療機関を受診し、初期診療の過程で二次、三次救急医療を必要とする患者さんは適時二次、三次医療機関へ後送されます。これは二次救急医療でも同様で、当初二次救急医療機関に搬送され、入院加療を要する重症患者さんでも診療の過程で三次救急医療を必要とすると判断された場合、救命救急センターなどの三次救急医療機関へ後送されます。

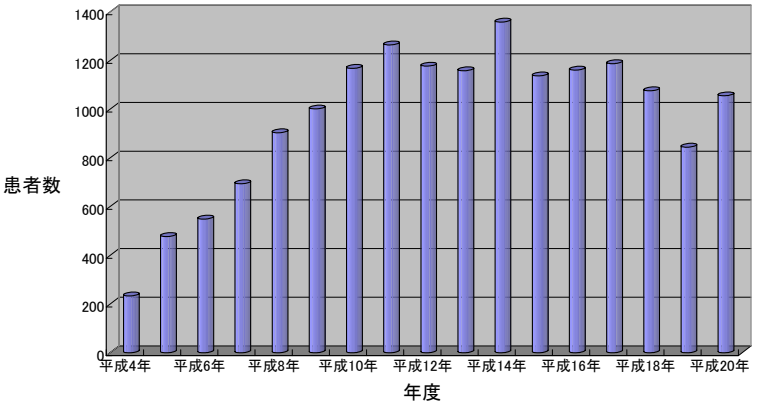
このように救命救急センターは救急医療の**「最後の砦」**とも言うべき三次救急医療を担う中核的施設で、全国的には人口 100 万人に一施設の割合で設置されました。愛媛県では最初愛媛県立中央病院に救命救急センターが設置されましたが、地理的に東予から南予に至る距離がかなりあるため、その後東予救命救急センターが当院に、南予救命救急センターが市立宇和島病院に設置されました。

東予救命救急センターは平成 4 年 8 月に当院に併設され、四国中央市から今治市に至る 30 万～40 万人を背景人口とする東予地域の三次救急医療機関としての役割を担っています。

図 1 に東予救命救急センター開設以来のセンター収容患者数をしめしています。

収容患者数は開設後徐々に増加し、平成 10 年度以降は年間 1100 名前後、1 日平均 3 名の収容患者数で推移していましたが、平成 18 年度から麻酔科医、整形外科医の不在、また小児科医の減員となり、平成 19 年度には約 850 名に減少しました。整形外科医の不在は続いていますが、平成 20 年度には麻酔科医の常勤、小児科医の増員、産婦人科の新設により救命救急センター収容患者は増加してきています。

図1 救命救急センター収容患者数



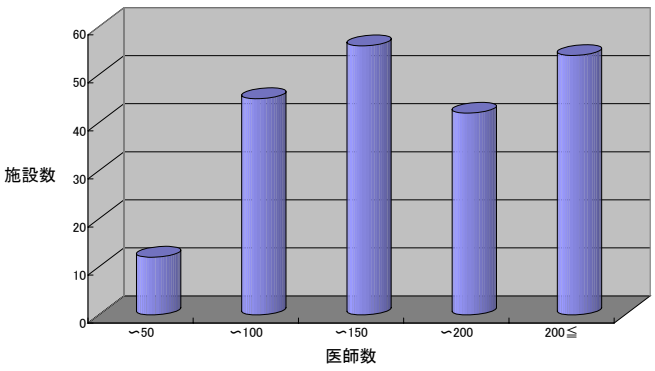
救命救急センターとしての現在の体制は十分とはいえませんが、東予地域の救急医療に必要とされている現状を認識し、今後も求められる三次救急医療を中心とした診療機能を維持すべく努力してまいりたいと思います。

東予救命救急センターの現在の問題として診療機能維持に不可欠の診療科の休診という事態が依然として解消されていないことがあります。これについては当院に来院される患者さんから苦言をいただいていますし、地域住民の皆様には大変なご迷惑をおかけしており、申し訳なく思っております。

しかし、根本的には勤務医の不足という問題があり、これにより救急医療が崩壊しつつあります。当院の医師数も麻酔科、小児科、整形外科などの退職、転勤で減少し、昨年度から少し増員となっていますが、それでも救命救急センターを抱える医療機関としては 40 名に満たない状態が続いています。

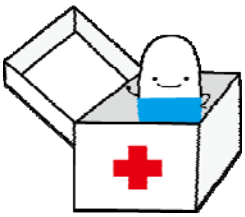
現在全国に 220 施設の救命救急センターが設置されていますが、救命救急センターを有する医療機関の医師数を 2008 年 10 月の時点で調べてみたのが**図 2** です。これでみると医師数が 50 名以下の医療機関はわずかに 12 施設で、大多数の施設で 100 名以上の医師数を有しています。地域により背景人口が異なるため、医師数でその負担の程度を単純には比較できませんが、救命救急センター

図2 救命救急センターを有する医療機関の医師数



には三次救急対応の重症患者を 365 日、24 時間体制で受入れることが求められており、当院も少ない医師数で受入れ体制をとっています。人口の多い地域に比較すると受入れ患者数の絶対数は多くはありませんが、医師数が少なければ少ないほど医師一人一人の拘束時間は長くなり、精神的な負担は多くなってきますので、長期的には疲弊などの問題も憂慮しなければなりません。

当院は三次救急医療機関であると同時に二次救急医療機関としての役割も求められており、負担の多くなる状況の中でいかに効率良く良質な医療を提供し、かつスタッフが疲弊しないために負担を軽減する方策も考えなければなりません。それが現状で我々ができる救急医療の崩壊を少しでも緩和する１つの方法だと思います。そのために初期救急医療については新居浜市の内科・小児科急患センターを中心にお願いし、当院にかかりつけの患者さん以外は原則お断りするようにしています。当院としてはより良い二次、三次救急医療機関としての役割を果たしていきたいと考えています。



これにつきましては以上のことをご理解のうえ、患者さん、地域の住民の皆様にはご協力をお願いしたいと思います。

今後も地域から信頼され、必要とされる病院、救命救急センターを目指し、安心、安全、良質な医療を提供できるよう努力してまいりますので、宜しくお願いいたします。

第三回医療連携交流会を開催しました。

H21.11.4（水）

リーガロイヤルホテル新居浜にて日頃よりお世話になっている紹介元の医療機関の皆様をお招きして医療連携交流会を開催いたしました。

貴重なご意見、ご要望をありがとうございました。今後も病・病連携、病・診連携を積極的に行うとともに、地域の方々に高度で最良の医療を効率的に提供できるよう努力して参りますので、ご理解・ご支援の程よろしくお願いいたします。

ボランティア活動に感謝しています。

9 月 26 日（土）

8 病棟前のさざんかを中心に庭木の剪定を行っていただきました。

12 月 10 日（木）

院内でクリスマスコンサートを開催いたしました。

随時

院内の絵画や俳句の掛け替えを行っていただいています。

★ボランティアを募集しています★

連絡先　0897-31-8868

（地域連携室）

インフルエンザ対策

世間を騒がせている『新型インフルエンザ』。当院においても、１０月後半から１１月にかけては子供、大人ともにインフルエンザと診断される患者さまが増加していました。現在は若干減少してきていますが、依然新型インフルエンザでの学級閉鎖が行われたり、死亡記事が報道されており、第２波の可能性や季節性インフルエンザの流行も今後懸念されます。

新型インフルエンザワクチンの接種も開始されましたが、入荷数に限りがあるため、当院でも国が提示する優先接種対象者リストに準じて接種を実施している状況です。

当院では１０月２６日から院内感染防止を目的に、有熱者の方にテント診療を開始しました。初めは慣れない事で戸惑いもありましたが、ＩＣＤ（感染管理制御医師）をはじめとする関係医師、ＩＣＮ（感染管理認定看護師）、ＩＣＴ（感染対策チーム）メンバー、外来スタッフ、事務職員など診療に携わるスタッフが中心となり話し合いを重ね、できる限り患者さまにご理解していただき苦痛やご不便をかけないように診療をさせていただいています。

またポスターの掲示、アルコール消毒剤の設置といった院内感染対策についてはＩＣＴが中心となって取り組んでいます。

正面玄関前の様子

テント入口

インフルエンザを予防するために

まだまだ流行中のインフルエンザですので、予防をきちんと行いましょう。

・人込みや繁華街への外出を控える
　もっとも効果的な予防策は人と人との接触を減らすことです。
・外出時にはマスクを利用する
　ウイルスの侵入また拡散を防ぐために
　マスクを活用しましょう。
・うがい、手洗いの励行
　外から帰ったらこまめに手を洗う習慣を
　つけましょう。
・咳エチケットの実行
　一人一人の心遣いが流行の拡大を防ぎます。

テント待ち合い

テント診察室

★咳エチケット

・咳やくしゃみをする時は他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう
・咳やくしゃみを抑えた手を洗いましょう
・使用したティッシュはすぐに捨てましょう
・咳やくしゃみが出ている時はマスクを着用しましょう

愛媛県立新居浜病院主催市民公開講座を御存知ですか？

メタボと動脈硬化について、皆さんと一緒に学んでいきましょう！！！！

病気になったら、病院に行く？　病気は医者まかせでいいのでしょうか？　病気にならないために、自分にできることは何かないのでしょうか？　**『自分の体は自分で守る！』**　これからは、大切なことだと思いませんか？　じゃあ、どこで学べばいいのでしょうか？　自分で、テレビや本で勉強するのもいいでしょうが、お金もかからない市民公開講座もそのひとつです。**愛媛県立新居浜病院主宰の市民公開講座**が、開催されていることを御存じですか？　御存じない方が多いかと思いますが、公の機関であるが故に、新聞等への広告が困難ですので、参加して頂いた方からの口コミで、徐々にこの新居浜市・西条市・四国中央市に浸透していくのを実行委員一同期待しています。

この市民公開講座を、平成 20 年の 11 月 16 日（第一回）と平成 21 年 6 月 20 日（第二回）に開催しました。最近話題の **メタボリック症候群** と **動脈硬化** を中心に、市民の方と一緒に考え学んでいくザックバランな勉強会です（ 約2時間程度 ）。

第一回は、最近話題のメタボリック症候群を酒井院長先生が講演され、脳動脈疾患の予防と治療について脳神経外科医の武田センター長先生が、また、大動脈疾患・冠動脈疾患の治療方法等について心臓血管外科医の北條副院長先生から講演がありました。

第二回は、看護師さん・薬剤師さん・栄養士さんからも実際に役立つ講演があり、当院の看護師有志数名による救急蘇生の実技指導が、劇を交えながら行われました。第一回二回ともに、約 200 名の方が参加して下さり、参加された方々からは、「大変勉強になった」と好評を頂いております。

次回の第三回は、**平成 22 年 6 月 19 日**を予定しています。一度、参加してみませんか！　実際にこの市民公開講座に参加し、話を聞いて頂き、自分の体を守るために、自分にできることは何かということについて、少し一緒に考えてみましょう！　必ず、有意義な時間になると思います。

世の中は、飽食時代で、過食・運動不足・肥満が蔓延しています。その結果、糖尿病・脂質異常症・高血圧症等のメタボの方が増え、動脈硬化性疾患が急増しています。また、喫煙による健康被害が叫ばれていますが、いまだに、多くの方が喫煙され、受動喫煙も問題になっています。このような環境下で、どうやって自分の体を守ればよいのでしょうか？　皆さんは、自分の体に何かいいことをされていますか？　一度、この市民公開講座に参加され、自分の健康について、我々と一緒に考えてみましょう！　これからは、悪くなったら病院を受診ではなく、悪くならないように、自分の体は自分で守る。動脈硬化にならないために、今、自分にできることは何かについて考えてみることが必要ではないでしょうか！　さあ、この市民公開講座に参加して一緒に考えてみましょう！

多くの方の参加をお待ちしております。

2009 年 1 月 吉日

愛媛県立新居浜病院

市民公開講座実行委員会